

# 日中両言語における極端とりたて表現の対照研究<sup>1</sup>

— “连” の文法化と省略をめぐる —

A Study on Extreme Focus Expressions of Japanese and Chinese:  
Examining Grammaticalization and Ellipsis of *LIAN*

李 哲

Li Zhe

This paper contrasts the syntactic features of extreme focus expressions in Japanese and Chinese. The extreme focus expressions of both Japanese and Chinese languages productively focus on nouns and noun phrases. In contrast, there are certain restrictions when emphasizing predicative elements such as verbs and adjectives. The Japanese extreme focus expressions have a rich variety and appear in relatively fixed position in a sentence while most Chinese extreme focus expressions have converted from adverbs and show intermediate characteristics. This paper argues that the Chinese preposition *LIAN* has gradually grammaticalized and come to function as an extreme focus marker due to the “distance-marking” principle and the “identifiability precedent” theory. The extreme focus marker may be omitted, but the ambiguity caused by the ellipsis can be eliminated by placing prominence in spoken language.

キーワード： 極端とりたて表現，統語的特徴，连，文法化，省略

Keywords: Extreme focus expressions, Syntactic features, *LIAN*, Grammaticalization, Ellipsis

## 1. はじめに

### 1.1 極端とりたて表現について

極端とりたてとは「文中のある要素をとりたて、同類のものの中で、極端な例として示すとともに、ほかのものは当然そうであるという意味を暗示することである」(日本語記述文法研究会(編)2009:87)。日本語の極端とりたて表現は主に「さえ」「まで」「も」(極端とりたて表現に下線を引く)などのとりたて助詞がその機能を果たしている。

---

<sup>1</sup> 本研究は中国教育部人文社会科学研究プロジェクト(21YJC740048)の研究成果の一部である。本稿の内容は「日中対照言語学会第46回大会兼2022年日中対照言語研究国際シンポジウム」における口頭発表に基づいたものである。

- (1) いつも外食なので、カップめんさえ、作ったことがない。
- (2) 餓死寸前になって、雑草まで食べた。
- (3) 転勤のことはまだ妻にも話していない。

(日本語記述文法研究会 (編) 2009:87)

上記の例文では、「カップめん」「雑草」「妻に」がそれぞれ極端とりたて表現の「さえ」「まで」「も」にとりたてられている。(1)の「カップめん」は非常に料理しやすいもので、それを「作ったことがない」というあまり想定できない極端な例をあげることを通し、ほかの料理も当然一切作らないことが暗示されている。(2)の「雑草」も普段食べないもので、それを食べるようになったのはきわめて極端的な例で、命を維持できる食べ物なら、なんでも食べることが分かる。(3)も同様に、「妻に」という極端な例を示すとともに、「転勤のこと」について、誰にも話していないことが含意されている。

中国語では、例文(4) (5)のように、“連…都” “連…也” 構造が中心で、極端とりたて表現の機能を果たしている。本稿はそれらの表現を「中国語極端とりたて表現」と呼ぶ。

- (4) a 自己 掏 钱 搞试验, 连 他的 妻子 都 “想 不 通”。

(自分 出す 金 実験する PREP 彼の 妻 さえ 考える NEG 通じる)

「自分で金を出して実験し、彼の妻さえ『考えられない』と言っている」

(『福建日报』2008)

- (5) a 我们 写 文章, 应当 连 一个 标点 也 不 放松。

(わたしたち 書く 文章 すべき PREP 一つ 句読点 も NEG 緩める)

「私たちは文章を書くとき、句読点を一つも緩めない」 (老舍『出衆の口才』)

(4a)における“他的妻子”は“連…都”によってとりたてられ、最も親しい人という極端な例を示すことを通し、かれのやったことは人が理解してくれないのも当然であることが暗示されている。(5a)の“一个标点”は文章整体にとって、極めて小さな一環である。それがとりたてられることで、文全体に留意しなければならないことが分かる。

上記の(4a) (5a)から見えたように、中国語の極端とりたて表現はよく“連…都” “連…也” の呼応形式で表現されている。“連”は前置詞で、“都”か“也”と共に起し、“連”の後ろに来る成分をとりたてる。場合によっては、“連”が現れないこともある。例えば(4a) (5a)における“連”を省略すると、下記の(4b) (5b)となり、意味上では(4a) (5a)と変わらない。

- (4) b 自己 掏 钱 搞 试验, 他 的 妻子 都 “想 不 通”。  
 (自分 出す 金 実験する 彼の 妻 さえ 考える NEG 通じる)  
 「自分で金を出して実験し、彼の妻さえ『考えられない』と言っている」(筆者作例)
- (5) b 我们 写 文章, 应当 一个 标点 也 不 放松。  
 (わたしたち 書く 文章 すべき 一つ 句読点 も NEG 緩める)  
 「私たちは文章を書くとき、句読点を一つも緩めない」(筆者作例)

一方、“连”の省略で文の意味変化を起こす例もしばしばある。例えば、以下(6a)における“连”を削除すると(6b)のような曖昧文となる。

- (6) a 拥挤 的 船 上, 连 小孩 都 没 有 笑容。  
 (混む の 船 上 PREP 子供 も NEG 持つ 笑顔)  
 「混んだ船の中では、子供も笑顔を見せなかった」(『当代』)
- b 拥挤 的 船 上, 小孩 都 没 有 笑容。  
 (混む の 船 上 子供 も NEG 持つ 笑顔) (筆者作例)

(6b)には二つの解釈がある。一つは(6a)と同じように極端とりたて表現文として理解でき、“小孩”が極端な例としてとりたてられ、ほかの人も当然笑顔がないことを表現する。もう一つは、「子供全員がだれも笑顔を見せなかった」という意味を表している。

以上の例文から分かるように、日中対照の視角から見た中国語の極端とりたて表現は“连”の使用と省略などにおいて、独自な特徴を示している。

## 1.2 先行研究と問題点

極端とりたて表現については、様々な観点から議論が活発に行われ、豊富な研究成果が蓄積されてきた。日本語記述文法研究会(編)(2009)のほか、三井(1997)、菊地(1999)、沼田(1986、2009)、井島(2007)、澤田(2007)などは「さえ」「まで」「も」の統語、意味機能などについて指摘している。井上(2019)は中国語のとりたて表現について、副詞がとりたて表現とつかわれ、主語と述語の間に置かれ、主に限定、極端、類似を表し、意味が同じでも、使い方が異なることがあると指摘されている。

中国語極端とりたて表現に関する先行研究について、沈開木(1988)、曹秀玲(2005)、劉丹青(2005)、袁毓林(2006)、楊永龍(2011)など、様々な角度から“都”“也”をめぐる検討している。結論としては、“都”は総括を表す副詞で、“也”は類似を表す副詞である。呉衛平(2014)、呉慶霞(2015)、段継緒(2019)、胡亜敏(2020)などは日中対照の視角から、極

限とりたて表現が文法、意味や語用などにおける異同について議論している。しかし、中国語極端とりたて表現における“連”の文法化と省略の原因について、まだあまり言及されていない。

したがって、本稿は、日本語の極端とりたて表現を基盤に、まず、パラレル・コーパスを利用して中国語の極端とりたて表現を見出して整理する。それから、様々な言語事実に基づき、日中両言語の極端とりたて表現の統語的な類似点・相違点を指摘する。その異同を踏まえ、中国語極端とりたて表現の前置詞“連”の使用と省略をめぐる考察する。

## 2. パラレル・コーパスにおける対応関係

### 2.1 対訳分布

日本語極端とりたて表現と中国語極端とりたて表現の対応関係の実態について考察するために、以下では主に北京日本学研究中心が作成したパラレル・コーパス『中日対訳コーパス』(以下、BJSTC)を用いて調査を行う。BJSTCにおける日中両言語の極端とりたて表現の対訳への考察を通し、両言語間で対応する部分を容易に観察できると考えられる。場合によっては国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ)と『北京語言大学中国語コーパス』(以下、BCC)を補充としてデータの信度を確保する。

本節では極端とりたて表現について、実際にどの程度使われているかを明らかにするため、まず典型的な極端とりたて表現の出現度合いを調査する。そして日中両言語の極端とりたて表現の対応関係について研究し、明らかにする。統計の都合上、BJSTCでの検索はコーパス内から日本語の資料と中国語の資料をそれぞれ15点選定して行った。対応関係の客観性を確保するために、日本語の極端とりたて表現に対応する中国語訳とともに、中国語の極端とりたて表現に対応する日本語訳も抽出する。検索結果は表1の通りである。

[表 1] BJSTCにおける極端とりたて表現の対訳分布

| 日本語→中国語 |     |                                 | 中国語→日本語 |     |                                      |
|---------|-----|---------------------------------|---------|-----|--------------------------------------|
| 日本語原文   | 用例数 | 中国語訳                            | 中国語原文   | 用例数 | 日本語訳                                 |
| さえ      | 79  | 連…都、連…也、<br>都、也、<br>甚至、即使<br>など | 连…都     | 272 | さえ、まで、も、<br>さえも、までも、<br>でも、だって<br>など |
| まで      | 64  |                                 | 连…也     | 224 |                                      |
| も       | 51  |                                 |         |     |                                      |

表1が示すように、使用頻度の側面では、日本語の極端とりたて表現の「さえ」「まで」「も」には大きな差がない。中国語の“连…都”“连…也”の語例数も近いので、使用頻度はほぼ同じだと言えるのであろう。つまり、両言語の内部では、各極端とりたて表現は数量上で均等に使われているという共通点を持っている。また、総量でいえば、同様な言語範囲で観察すると、中国語の極端とりたて表現の使用総量は日本語のそれより多い。むしろ、コーパスを使用した研究結果は検索範囲と検索方法に大きく影響されるので、本稿では結果の相対的な客観性を求めるために、(BCCWJ、BCC)でも検索を行った。結果として、同じ言語使用量では、日本語より中国語のほうが極端とりたて表現が愛用されている。

対訳の全貌で言えば、「さえ」「まで」「も」と“连…都”“连…也”はほとんど相互対訳できる。ただし、日本語の極端とりたて表現を中国語に翻訳する時、“连”の省略された“都”“也”を使用する例文が大量に観察される。“连”の省略式も日本語極端とりたて表現と適切に対応できることが分かった。

## 2.2 対応関係分析

以下ではBJSTCにおける原文と訳文を例に、日中両言語の極端とりたて表現の対応関係を具体的に分析する。

- (7) a 「薄情ね、わたしさえ来ましたのに。」 (原文)  
 b “薄情 啊，连 我 都 来 了。” (訳文)  
 (薄情 ね PREP 私 さえ 来る 了2)
- (8) a 「貴方とのことさえ相談できたんですもの。」 (原文)  
 b “就 连 同 你 的 事 也 和 他 商量 来着。” (訳文)  
 (ADV さえ と あなた の こと も と 彼 相談 ですもの)
- (9) a 宿屋だけに手紙まで泊る積なんだろう。(原文)  
 b 到底 是 旅馆，连 信 都 留宿 了 几天。(訳文)  
 (だけには 旅館 PREP 手紙 まで 泊まる 了1 何日間)
- (10) a 自分までが有名になったような気がします。(原文)  
 b 好象 就 连 自己 也 跻身 名流 之 列 罗。(訳文)  
 (まるで ADV PREP 自分 も 入る 名人 の 列 終助詞)
- (11) a 曾根はあいさつもそこそこにふらふらとその店を出た。(原文)  
 b 曾根 踉踉跄跄 走 出 店 来，  
 (PN ふらふら 歩く 出る 店 来る)  
连 句 象样的 道别 话 也 没 顾上 说。(訳文)  
 (PREP 一文 ちゃんとした 分かれる 話 も NEG 間に合う 話す)

- (12) a 「火もつけられないじゃありませんか」 (原文)  
 b “这不，连 火 都 点 不 着！” (訳文)  
 (ほら PREP 火 も つける NEG 結果補語)

(7)から(12)までは「さえ」「まで」「も」と“連…都”“連…也”の典型的な対応例である。「さえ」「まで」「も」はいずれも“連…都”“連…也”に翻訳できる。逆に“連…都”“連…也”も「さえ」「まで」「も」のどちらとも対訳できる。それに、コーパスへの観察によると、このような対応例は多く、極端とりたて表現の大部分を占めている。つまり、「さえ」「まで」「も」と“連…都”“連…也”は対応度の高い表現である。しかし、日中両言語の極端とりたて表現は完全対応しているというわけではない。以下では、対応度の低い例をあげて述べていく。

- (13) a どこから唄が聴こえた。カレーの匂いさえ漂っていた。 (原文)  
 b (前略) 甚至 有 咖喱 气味 飘 至 鼻端。 (訳文)  
 (ひいては ある カレー 匂い 漂う 至る 鼻)  
 c ?连 咖喱 的 香味 都 漂 着。 (筆者作例)  
 (PREP カレー の 匂い さえ 漂う ている)
- (14) a あの鼻だから出家したのだろうと批評する者さえあった。 (原文)  
 b 有 人 甚至 议论 道,  
 (ある 人 ひいては 議論 話す)  
 他 正是 由于 有 那么 个 鼻子 才 出家 的。 (訳文)  
 (彼 まさに から ある ああいう 1つ 鼻 ADV 出家 のだ)  
 c ?连 批评 他 正是 由于 有 那么 个 鼻子 才 出家  
 (PREP 批评 彼 まさに から ある ああいう 1つ 鼻 ADV 出家)  
 的 吧 的 人 也 有。  
 (のだ 感動詞 の 人 も いる) (筆者作例)

(13a)における極端とりたて表現の「さえ」は「カレーの匂い」を際立ち、庭の居心地の良さを暗示している。それに対応する中国語の訳文(13b)では、常用の“連…都”“連…也”の代わりに、“甚至”という副詞が使われ、“有咖喱气味飘至鼻端”(カレーの匂いが漂っていた)を修飾する。もし、“連…都”で日本語の極端とりたて表現文(13a)を字面どおりに翻訳すると、(13c)のような不自然な文となる。

また、(14a)では「さえ」のとりたてる対象は「あの鼻だから出家したのだろうと批評する者」で、複雑な構造である。それに対応する中国語文においても、副詞“甚至”が使い

られた。(13c)と同様に、典型的な“連…也”でその複雑構造をとりたてて翻訳すると、(14c)という容認度の相当低い文となる。

(13c)と(14c)の容認度が低くて不自然なのは極端とりたて表現のとりたてる対象の性質と述語制限にかかわる。

- (15) a 孤独にさえも見えた。 (原文)  
 b 甚至 感到 有点 孤独。 (訳文)  
 (ひいては 感じる 些か 孤独)  
 c \*连 孤独 都 感到。 (筆者作例)  
 (PREP 孤独 さえ 感じる)  
 d \*感到 连 孤独 也。 (筆者作例)  
 (感じる PREP 孤独 さえ)
- (16) a 誰もそんな風にきちんと説明してくれなかったわ。英語の先生でさえよ。 (原文)  
 b 没一人阐述得如此头头是道, 英语 老师 都 在 内。 (訳文)  
 (前略) (英語 先生 さえ いる うち)  
 c \*没一人阐述得如此头头是道, 英语 老师 都。 (筆者作例)  
 (前略) (英語 先生 さえ)  
 d 没一人阐述得如此头头是道, 哪怕/即使 是 英语 老师。 (筆者作例)  
 (前略) (でさえ は 英語 先生)

(15a)では、極端とりたて表現の「さえも」によって修飾成分の「孤独に」がとりたてられている。対応する中国語(15b)は“甚至”を通して“看起来很孤独”(孤独に見えた)を修飾する。中国語の極端とりたて表現“连…都”“连…也”などで翻訳すると、(15c)(15d)のような非文になる。

(16)は極端とりたて表現が単独で使われる例である。(16a)は非常に自然な文であるのに対し、(16c)は非文である。訳文の(16b)と“都”が独に使われる(16c)を比較すると、“都”の後ろに“在内”(入る)という述語が訳者によって加訳されたのである。この述語の補充が必須な原因を考察する必要がある。また、(16d)のように、連続詞“哪怕/即使”(でさえ)を入れても(16a)と対応度の高い訳文にもなれる。つまり、中国語の極端とりたて表現の“连…都”“连…也”構造は独立に現れない。

“甚至”をはじめ、“哪怕”“即使”のような副詞は日本語極端とりたて表現に対応できる。先行研究において、とりたて表現とみなすものはまだ見られないが、これらの副詞には極端とりたて表現の機能を持っている。また、コーパスでは、“甚至”“哪怕”“即

使”のような副詞は“也”“都”と共起して使われる例が多く見られている。以上の理由で、これらの副詞も中国語極端とりたて表現に属すると考えられる。

### 3. 統語的特徴の対照

#### 3.1 日本語極端とりたて表現の統語的特徴

日本語極端とりたて表現にはとりたて助詞の「さえ」「まで」「も」が主要で、接続においては、助詞の特徴に従い、様々な言語形式に後接できる。以下の分析では、最も頻繁に使用される「さえ」を中心に分析し、「まで」「も」については、「さえ」と異なる所だけを指摘する。

「さえ」「まで」「も」のとりたてる要素については、いずれも格成分、節と述語をととりたてられる。

(17) 本人さえ事故との因果関係に気付かなかった。 (『北海道新聞』2003)

(18) 自分の戸籍さえも持っていない男であった。 (北森鴻『花の下にて春死なむ』)

上記の(17)では、主語の「本人」がとりたてられ、(18)では目的語の「自分の戸籍」がとりたてられる。日本語極端とりたて表現のとりたてる格成分には、特に主語と目的語に充当する名詞や名詞句がとりたてやすい。名詞述語はとりたてにくい。

(19) 日本人の叡智と自然観、もっと言えば宇宙観がそこに見てとれさえした。

(『森の旅森の人』)

(20) 船員として雇われることさえ、原則的には認められなかった。(『日本列島を往く』)

述語動詞をととりたてる場合、(19)のように、「さえ」は動詞の連用形につき、後に「する」が付く。述語動詞以外では、形式名詞「こと」によって体言化された動詞節もととりたてる要素になりやすい。(20)では「船員として雇われる」は「こと」によって体言化され、「さえ」のとりたてる要素になる。このような例もコーパスで大量に観察されている。

(21) 今夜はまた特に、暑苦しくさえ思えた。 (乃南アサ『水の中のふたつの月』)

(22) それは美しくさえあるものでした。 (大江 健三郎『大江健三郎小説』)

(23) たださえ病み上がりの日本経済はひとたまりもありませんでした。

(平野拓也『大蔵省元相談官』)



「さえ」は形容詞と副詞をとりたてることもあるが、非常に少量である。BCCWJ コーパスにおいて、「さえ」が形容詞をとりたてる例は55件で、副詞をとりたてる例は15件しか観察されていない。(21)(22)が示すように、形容詞は「思える」「見える」「感じる」「思う」のような感覚動詞と「ある」「なる」「映る」のような動作結果が存続する動詞を修飾する場合に限り、「さえ」にとりたてられる。

- (24) \* だれさえ来りましたか? (日本語記述文法研究会(編)2009: 93)  
 (25)? 一分さえ待てない。 (日本語記述文法研究会(編)2009: 93)  
 (26) 微量のウラン - 二百三十五さえ入手することが不可能な時代であった。  
 (達川秀夫『吉原子力/時代を先駆けた男』)

「さえ」は疑問詞にはつかないので、(24)は非文である。(25)は容認度の低い文で、「さえ」は数量詞に付きにくい。BCCWJ では数量詞をとりたてる例文を1件(26)しか検出されなかった。(26)における数量詞「二百三十五」は実際に「微量のウラン」の番号で、名詞と見なしてもいい。つまり、「さえ」は数量詞をとりたてにくい。

- (27) 紅一点の彼女はピュアな、目に痛いまでに明るいピンクに彩られていた。  
 (『小説推理』)  
 (28) \*そんなにゆっくりとまで歩かなくていい。 (日本語記述文法研究会(編)2009: 93)

「まで」は上記の(27)で形容詞の「痛い」をとりたてられるが、(28)では副詞の「ゆっく」とをとりたてることはできない。総じていえば、「まで」のとりたてる要素について、「さえ」と同じように、名詞や名詞句、動詞、形容詞をとりたてることができるが、副詞、数量詞と疑問詞をとりたてることはできない。

- (29) a 日中、村をうろうろしていれば、子供にまで好奇の目で見られる。(『昭和文学全集』)  
 b \*日中、村をうろうろしていれば、子供にまで好奇の目で見られない。(筆者作例)  
 (30) 1泊2日のキャンパスに裁縫セットまでもっていくんですか。  
 (日本語記述文法研究会(編)2009: 98)

また、「さえ」と比べると、「まで」は(29a)で使えるが、(29b)のような否定文では用いにくい。疑問文に用いられることもあるが、(30)のような「のか」疑問文に限られている。

一方、「も」は名詞、名詞句、様態を表す副詞をとりたてることができる。疑問語と数量語に付くこともできる。

- (31) 田中さんはこちらをちらりとも見なかった。 (日本語記述文法研究会(編)2009: 105)  
 (32) 株主はだれも反対しませんよ。 (『国会会議録』)  
 (33) 漫画週刊誌を1種類も読まない者が約3分の1いる。 (『厚生白書』)  
 (34) その中に遺伝子が何十億も入っていたわけです。 (『立花隆の無知蒙昧を衝く』)

(31)における「も」のとりたてる要素は様態を表す副詞「ちらりと」である。様態以外の副詞は「も」にたてられない。(32)では疑問詞「だれ」が「も」によってとりたてられ、同類の要素のどちらもそうであることを表す。(33)と(34)は数量詞をたりたてる例で、それぞれ極端な少量と極端な多量を際立たせている。

「も」は述語をとりたてる時、よく否定が伴う。「まで」と同様に「のか」疑問文に使われ、ほかの疑問文ではあまり使われない。

全体的なイメージからいうと、日本語極端とりたて表現は体言成分も用言成分もとりたてられる。用言成分より、体言成分のほうがとりたてられやすいのである。例えば「さえ」を例に、各品詞との共起用例数を抽出すると、以下のとおりである：名詞 6195 件、動詞 626 件、形容詞 55 件、副詞 15 件、数量詞 1 件。「まで」「も」の品詞別共起語例数もほぼ同じ比例を呈している。日本語極端とりたて表現のとりたてやすい順は「名詞>動詞>形容詞>副詞>数量詞>疑問詞」の特徴を持っている。

### 3.2 中国語極端とりたて表現の統語的特徴

“連…都” “連…也” の統語的特徴もとりたてる要素、述語制限及び統語位置から分析する。主に使用頻度のやや高い“連…都”を中心に考察し、“連…也”の異なる点を補充する。まず、“連…都”に介入できる要素を調査する。

- (35) 连 生命 都 受到 威胁。  
 (PREP 命 まで 受ける 脅威)  
 「命まで脅かされる」 (微博)
- (36) 连 汽车 都 能 坐 电梯 了。  
 (PREP 自動車 さえ できる 乗る エレベーター 了)  
 「自動車さえエレベーターに乗れるようになった」 (微博)

名詞や名詞句をとりたてるのは中国語極端とりたて表現の常用機能である。BCC コーパスを利用して“連+名詞+都”構造で検索すると、36477 件の例文が観察される。(35)と(36)はその例である。(35)の名詞“生命”は目的語で、(36)の名詞“汽车”は主語として現れる。中国語極端とりたて表現“連…都”のとりたてる名詞成分は主語、目的語、間接目的語に

充当できる。そのうち、目的語に充当する名詞や名詞節がとりわけ多い。中国語は SVO 語順であるが、“連…都”構造によって、O は前置され、特殊な SOV 語順を獲得する。

名詞をとりたてるとき、述語制限はなく、肯定にも、否定にも、疑問文にも使用できる。

(37) 连 呼吸 都 困难。

(PREP 呼吸 さえ 困難)

「呼吸さえ苦しい」

(微博)

(38) 有些 学生 连 玩 都 不 会 玩。

(一部 学生 PREP 遊ぶ さえ NEG できる 遊ぶ)

「一部の学生は遊ぶことさえできない」

(微博)

BCC コーパスでは“連+動詞+都”構造の語例は 11651 件検出されている。(37)では動詞“呼吸”(38)では動詞“玩”が“連…都”によってとりたてられている。しかしながら、“呼吸”というような動詞は中国語では「動名詞」と呼ばれることもある。(38)の“玩”も意味上では「遊ぶこと」を表している。つまり、中国語極端とりたて表現は体言成分をとりたてやすい。動詞をとりたてるとき、中国語極端とりたて表現は動詞の体言化マーカにもなれる。述語制限について、動詞をとりたてるとき、後ろでは否定副詞の“不”“没”が伴いやすい。否定形式がない場合では、“困難”(困難)というようなマイナスな意味が頻用される。

(39) 我 连 3 秒 都 撑 不 到。

(私 PREP 3 秒 も 持つ NEG 結果補語)

「私は3秒ももたない」

(微博)

(40) 那人 连 一 分 钱 都 拿 不 出来。

(あの人 PREP 一文 金 も 出す NEG 出る)

「あの人是一文の金も出せない」

(李志农『自己动手』)

中国語極端とりたて表現は数量詞をとりたてやすい。BCC コーパスではそうした語例が数多く存在している。それに、日本語の「も」と異なり、少量を表す数量詞が一般的である。(39)の“3秒”と(40)の“一分钱”はいずれも少量を表している。

(41) 他们 连 快乐 都 感受 不 到。

(彼ら PREP 楽しい すら 感じる NEG 結果補語)

「彼らは喜びすら感じていない」

(微博)

(42) 连 清浄 都 变成 一种 奢侈。

(PREP 清浄 さえ なる 一種 贅沢)

「清浄さえ一種の贅沢になる」

(微博)

中国語極端とりたて表現は基本的にいえば少量の形容詞をとりたてられるが、副詞をとりたてることができない。BCC コーパスでは、“连…都”に入れる形容詞を大きく分けると、2種類がある。一つは(41)における“快乐”のような人間の感受にかかわる主観形容詞で、もう一つは(42)における“清浄”のような状態に対する描写である。“连…都” “连…也”に介入できる形容詞は表2の通りである。

[表2] “连…都” “连…也” にとりたてられる形容詞例

|       | 感情表現類                          | 状態描写類                 |
|-------|--------------------------------|-----------------------|
| “连…都” | 快乐、幸福、悲伤、难过、痛、冷、热、饱、           | 整齐、清洁、清浄、穷、           |
| “连…也” | 遗憾、暧昧、平安、善良、颓废、<br>愤慨、孤独、吃惊 など | 安静、黑暗、敌对、丰腴、<br>健康 など |

(43) a 孤独にさえも見えた。

(例文(15)の再掲)

b 甚至 感到 有点 孤独。

(ひいては 感じる 些か 孤独)

(訳文)

c \* 连 孤独 都 看上去。

(PREP 孤独 も 見える)

(筆者作例)

d \* 看上去 连 孤独 也。

(見える PREP 孤独 も)

(筆者作例)

e 连 孤独 都 不 能 承受。

(PREP 孤独 も NEG できる 堪える)

「孤独にも堪えられない」

(筆者作例)

(43a)に対応中国語を考察すると、“连…都” “连…也”が使われた(43c)(43d)が非文である原因はとりたてる要素の傾向に関連することが分かる。前述したとおり、日本語では、「孤独」のような形容動詞がとりたてられると、述語は「見える」のような感覚動詞に限られる。それと異なり、中国語では“孤独”がとりたてられる時、述語は(43e)のように、否定かマイナス評価が一般的である。(43c)(43d)は以上の一般傾向に適していないので非文だと判断できる。しかし、(43e)は原文の意味を変えた。言い換えると、統語的特徴の翻

訳方法に該当する訳文は原文の意味にふさわしくないので、訳すとき、別のとりたてる方法が必要になる。したがって、(43b)における“甚至”のようなとりたて副詞が用いられた。

また、日本語においても、中国語においても、極端とりたて表現は連体修飾語をとりたてられない。たとえば、「暑苦しさえ+名詞」「“连热都”+名詞」というような構造はなかなか成立できない。日本語の「も」と同様に、“都”“也”は疑問詞をとりたてる。たとえば、“什么都不吃”(なにも食べない)は言えるが、“连什么都吃”は非文である。すなわち、“连…都”“连…也”は疑問詞をとりたてにくい。

中国語極端とりたて表現も日本語と同様に、語、句、節をとりたてることができる。異なるのは、中国語表現のとりたてられる節の内容が日本語のほど豊富ではないことである。

- (44) a あの鼻だから出家したのだろうと批評する者さえあった。 (例文(14)の再掲)  
 b 有人甚至议论道，他正是由于有那么个鼻子才出家的。 (訳文)  
 c ? 连批评他正是由于有那样一个鼻子才出家的吧的人也有。 (筆者作例)
- (45) a 直子の顔を今すぐ思いだすことさえできないのだ。(村上春樹『ノルウェイの森』)  
 b 连 直子 的 脸， 遽然间 也 竟至 无从想起。  
 (PREP PN の 顔 今すぐ も ADV 思い出せない)(林少华译『挪威的森林』)

BCC コーパスを観察すると、“连…都”“连…也”のとりたてる要素は短くて簡単な成分に傾いている。いったん中に入る要素が長くなると、(44c)のような不自然な文になる。そのような場合で、中国語はとりたてる副詞の“甚至”を用いて長い成分をとりたてる。また、“连…都”“连…也”によってその長い成分で一番中心的な要素をとりたて、残った成分を“连…都”“连…也”構造から排除することもある。(45a)では、「直子の顔を今すぐ思いだすこと」が「さえ」によってとりたてられるが、(45b)では、“无从想起”(思い出すこと)が“连…也”のとりたてる要素からは除外されることで、自然な訳文が得られた。

- (46) a それはたまらなく哀しく辛いことだ。この僕にとってさえも。 (原文)  
 b 这委实是令人不胜悲哀和难过的事，甚至 对 我 来 说。 (訳文)  
 (前略) (ひいては にとって 私 来る 話す)  
 c \*这委实是令人不胜悲哀和难过的事，连 对 我 来 说 都。(筆者作例)  
 (前略) (PREP にとって 私 来る 話す も)

統語位置で見ると、日本語の極端とりたて表現は自由度が高く、さまざまな文成分をとりたて、文中で自由に使われる。“连…都”“连…也”構造は文中で独立的に使用できない。目的語、主語などをとりたて、文頭と文中に来られるが、文末には位置できない。た

たとえば、文末に位置する(46a)に対し、(46c)のように対応すると非文になる。

日本語の極端とりたて表現は疑問文に使えない場合がよくあるが、中国語のそれは疑問文に非常に使いやすいのである。上記の中国語例文の文末に疑問終助詞“吗”をつけると、ほとんど自然な疑問文になれる。

中国語極端とりたて表現は体言成分も用言成分もとりたてられる。用言成分より、体言成分のほうがとりたてられやすいのである。中国語極端とりたて表現の各品詞のたてやすい順は：「名詞>動詞>数量詞>形容詞」である。

日中両言語の極端とりたて表現の統語的特徴に関する分析を表3のようにまとめる。

[表3] 日中両言語の極端とりたて表現の統語的特徴対照

|     | とりたてる要素 |    |     |    |     |     | 述語制限                      |
|-----|---------|----|-----|----|-----|-----|---------------------------|
|     | 名詞      | 動詞 | 形容詞 | 副詞 | 数量詞 | 疑問詞 |                           |
| さえ  | ○       | ○  | ◎   | △  | ?   | ×   | 疑問文では用いない。                |
| まで  | ○       | ○  | ○   | ×  | ×   | ×   | 否定述語で用にくい；<br>「のか」疑問文に限る； |
| も   | ○       | ○  | ○   | △  | ○   | ○   | よく否定述語に伴う；<br>「のか」疑問文に限る； |
| 連…都 | ○       | ○  | ◎   | ×  | ◎   | ×   | 疑問文では使いやすい                |
| 連…也 | ○       | ○  | ◎   | ×  | ◎   | ×   | 疑問文では使いやすい<br>否定述語で使いやすい  |

(○可 ×不可 ◎ 制限あり △少ない ?不自然)

表3の示すように、日中両言語のとりたて表現はいずれも語、句、節をとりたてることができる。最もとりたてやすいのは名詞や名詞句のような体言で、動詞と形容詞のような用言成分をとりたてるときは一定の制限が課せられている。

副詞と数量詞をとりたてる場合には相違が多く見えている。日本語の「さえ」「も」は個別の副詞をとりたてられるが、中国語表現は副詞をとりたてにくい。数量詞をとりたてる時、日本語の「さえ」「まで」は基本数量詞をとりたてないが、「も」および“連…都”“連…也”は数量詞をとりたてることができる。ただし、「も」は数量の程度に要求がないのに対し、“連…都”“連…也”がとりたてられるのは小量を表すものに限られる。

日本語とりたて表現の述語制限は少なく、統語位置も相対的に自由である。とりたてる節の複雑さに影響されないし、文成分も移動させない。それと異なり、中国語表現は全体的に否定述語に用いられる傾向があり、文末で独立的に使用できない特徴を持っている。

統語位置はとりたて節の複雑さに影響され、目的語をとりたてると、その目的語は“连”によって述語の前に移動させる特徴がある。

#### 4. “连”の文法化と省略

日本語は中国語より形態が豊富な言語である。井戸(2021: 102)では、「日本語のとりたて助詞の形態は、副詞や形容詞からの派生ではなく、とりたて助詞専用の形態であるものが多い点も特徴的である」と指摘している。中国語のとりたて表現は副詞からの派生が中心である。ところが、極端とりたて表現の場合では副詞ではない“连”が大きな役割をもっている。前述 1.1 節で述べたように、“连”はしばしば省略される。本節は“连”の文法化と省略をめぐり、日中両言語の極端とりたての様々な異同はいついなんの言語類型的な特徴に影響されるかについて検討していく。

##### 4.1 「識別度優先」原則と「距離-標示」理論

日本語は典型的な SOV 語順言語である。ある言語が SOV 型語順を持つなら、その言語は後置詞を使うのが優勢語順であるとされている。日本語の極端とりたて助詞「さえ」「まで」「も」は助詞の機能に従い、名詞などの体言に後続するのが一般的である。とりたてられる名詞との関係からいえば、後置詞とも呼ばれるものがある。付加位置は言語類型論の優勢語順とは合致するので、日本語極端とりたて表現は各方面において安定で固定化している特徴を呈している。

日本語の極端とりたて表現は単独で機能を果たしているのに対し、中国語の“连”は顕著な焦点標示として“都”“也”と呼応して働いている。“连”の品詞性についてまだ論争があるが、焦点標示の機能については多く認められている。“连”構造は、中国語の主要な焦点標示方式の一つとして、中国語文法を特徴づける。現代中国語標準語は全体的に見れば、SVO 語順言語に属する。極端とりたて表現が主語などをとりたてるとき、語順は変わらないが、目的語が“连”となっている時、SOV 語順か OSV 語順となる。

(47) a 工作 很 忙, 他 顾不上 喝 水。

(仕事 とても 忙しい 彼 間に合えない 飲む 水)

「仕事が忙しくて、彼は水をろくに飲めない」

(微博)

b 工作 很 忙, 他 连 水 都 顾不上 喝。

(仕事 とても 忙しい 彼 PREP 水 も 間に合えない 飲む)

「仕事が忙しくて、彼は水もろくに飲めない」

(筆者作例)

- c 工作 很 忙, 连 水 他 都 顾不上 喝。  
(仕事 とても 忙しい PREP 水 彼 も 間に合えない 飲む)  
「仕事が忙しくて彼は水もろくに飲めない」 (筆者作例)

(47a)における目的語の“水”は、(47b)と(47c)では極端とりたてられる要素として、非常に識別しやすい話題に相当する成分となる。「識別度優先」(identifiability precedent)原則によると、もし他のすべての条件が同じならば、識別度の高い成分は低い成分の前に位置づけやすい。識別度が高ければ高いほど前置される傾向も大きくなる(陸丙甫 2005)。平常文の(47a)と比べ、極端とりたて文の(47b)と(47c)では、“水”はとりたてられる焦点で、意味上の識別度が(47a)における“水”よりずっと高いので、前方移動させる必要がある。

ところが、文における二つか幾つかの構成要素は、意味上の関連が緊密であればあるほど、付加位置もそれにつれて接近してくるとされている。目的語と動詞は意味上の関連が非常に緊密な例である。極端とりたて文の(47b)と(47c)では、前置された目的語“水”が述語動詞“喝”(飲む)と離れ、両者の緊密さが破壊された。

「距離-標示」(distance-marking)理論によると、他の一切の条件が同じ場合、一つの成分が核心語から遠く離れるほど、その成分と核心語との意味関係を示す顕性の標示を持つ必要がある(沈家煊 1996、陸丙甫 2004、陸丙甫・陳平 2020)。

極端とりたて表現のとりたてる要素が目的語の場合、日本語はそもそも OV 語順で、O は前方位置なので、識別度優先語順に合致する。中国語の場合では、目的語の O が前置させられると、核心動詞から離れるようになり、動詞との意味関係を示す標示が必要である。

“連”は「連動」の動詞意義から「連続」義、さらに「添加」義に発展してきた。品詞性は「動詞→接続詞→前置詞」へと変遷している。徐々に文法化されていくうちに、“都”“也”と呼応し、中国語極端とりたて表現の焦点標示となる過程があると考えられる。

#### 4.2 “連”の文法化と極端とりたて表現の中間状態

“連”は「識別度優先」原則と「距離-標示」理論の影響で、言語発展の要求に応じ、内容語から文法化され、機能語に変遷してきたと想定できる。

辻(編)(2013:331-332)では、「文法化とは、内容語(動詞や名詞など語彙的内容を持つ要素)が機能語(語彙的内容が希薄な助動詞や前置詞・助詞など)に通時的に変化することを言う」と指摘している。したがって、“連”の文法化過程は以下の傾向に関連する: 言語の発展には「内容語が機能語に向かって変化することによって、形態を豊かにする傾向がある。

言語は絶えずに発展して変化している。変遷していく過程で、よく曖昧な混合状態や中間状態が現れる。前述 2 節にも述べたように、中国語極端とりたて表現には“連”のほか



に、“甚至”“哪怕”“即使”などの副詞も日本語の極端とりたて表現と対応できる。それらの表現は“连”と同じように、“都”“也”と呼応し、“甚至(连)…都”“哪怕…都”“即使…也”などの構造を形成している。ただし、それらの表現は“连”より独立性が高いし、“甚至”“哪怕”“即使”が単独で使える(13b、16d 参照)など、各方面で“连”と異なる特徴を呈している。品詞性も接続詞か副詞であることから見ると、これらの表現は極端とりたて表現の中間状態ではないかと考える。つまり、これらの表現は極端とりたて表現としての機能がまだ完全に固定化されていない。

#### 4.3 解釈曖昧性とプロミネンス

言語には経済性原則が働く。町田(2004:169)によると、経済性とは、コトバのしくみは人間ができるだけ労力を使わなくて済むように、効率的に出来上がっているという性質のことを言う。経済性原則に影響され、1つの言葉は可能な限り多くの意味を負担し、より良い経済性効果を達成することができる。しかし、意味を持ちすぎると、曖昧性も生じやすい。日本語の「さえ」「まで」「も」、中国語の“都”“也”はいずれも言語の発展しているうちに多くの意味を蓄積してきた。特に、中国語の“都”“也”は、範囲副詞として使われる場合、文の意味がはっきりしないことが多い。もし焦点標示の“连”がなければ、極端と総括、極端と類似が弁別できないような曖昧性を生みやすい。

(48) a 拥挤的 船上, 连 小孩 都 没有 笑容。 (例文(6)の再掲)

(混む 助詞 船上 PREP 子供 も NEG 笑顔)

「混んだ船の中では、子供も笑顔を見せなかった」

b 拥挤的 船上, 小孩 都 没有 笑容。 (筆者作例)

(混む 助詞 船上 子供 も/皆 NEG 笑顔)

前にも述べたように、“连”を省略した文(48b)は曖昧文である。曖昧を起こした原因は文中の“都”が極端とりたて表現か総括の範囲を表す表現か弁別できないことである。このような“连”の省略がもたらした曖昧文が中国語でしばしば見られる。それでは、なぜ“连”が頻繁に省略されているのか。本稿は二つの方面から解釈してみる。

一つは、プロミネンスによって、それらの文の曖昧性が解消できることにかかわる。BCCとCCLコーパスを観察すればわかるように、“连…都”“连…也”は書き言葉にも話し言葉にも使用できるにもかかわらず、話し言葉として使われやすい傾向にある。話し言葉では、“连”が省略されても、プロミネンスによって文の意味を弁別できる。

たとえば、(48b)における“都”をやや強調して発音し、プロミネンスをつけると、“都”は総括の意味を表すようになる。子供全員、一人も例外なく、すべて笑顔がないことを意

味している。逆に、“小孩”にプロミネンスをつける場合、“都”は極端とりたて表現で、最も笑顔になりやすい子供という極端な例を挙げ、大人から子供まで、だれも笑顔を持っていないことが含意されている。“连…也”における“连”の省略も同様である。

つまり、話し言葉では、プロミネンスをつける手段によって、“连”の省略で起こした曖昧性が容易く解消できる。それに加え、“连”の省略はより言語の経済性原則にふさわしいこともあり、話し言葉では頻繁に出現している。

(49) a 连 警察 也 不 放 在 眼里。

(PREP 警察 も NEG 置く に 眼中)

「警察も眼中に置かない」

(微博)

b 连 警察 也 不 把 他 放 在 眼里。(動作相手の補充)

(PREP 警察 も NEG PREP かれ 置く に 眼中)

「警察でさえ彼を眼中に置いていない」

(筆者作例)

もう一つは曖昧性がプロミネンスによって解消できないものである。(49a)では“连…也”は“警察”をとりたてる。しかし、“警察”は主語か相手か不明なので、曖昧性がある。この文では、“连”があっても、なくても曖昧性は変わらない。プロミネンスをつけても曖昧性が解消できない。曖昧性の解消は(49b)のように具体的文脈に入れ、主語や動作相手を補充するしかない。こういう場合では“连”の省略は曖昧性にかかわらない。

(50) 自己 掏 钱 搞试验, 他的 妻子 都 “想 不 通”。(4aの再掲)

(自分 出す 金 実験する 彼の 妻 さえ 理解 NEG 合う)

「自分で金を出して実験し、彼の妻さえ『考えられない』』と言っている」

また、(50)では、“都”のとりたてる要素“他的妻子”(彼の妻)は単数性質なので、こういう場合、“都”は総括を表す可能性がなく、極端とりたて表現に相違ない。このように、“连”の省略が文の意味に影響しないケースもしばしば見られる。

つまり、“连”の省略で曖昧性を起こす場合、プロミネンスによって曖昧性を解消できる。“连”の省略で曖昧性を起こさない場合では、経済性原則が働き、省略の動因になる。

## 5. まとめ

本稿は日中両言語の極端とりたて表現について対照研究し、両言語の統語的特徴における共通点と相違点を明らかにした。そのうえで、両言語の異同を影響する諸要素を分析し

てきた。詳細は表4でまとめる。

[表4] 日中語の極端とりたて表現の対照

|              | 日本語極端とりたて表現                             | 中国語極端とりたて表現                        |
|--------------|---|------------------------------------|
| とりたてる<br>対象  | 名詞>動詞>形容詞>副詞>数量詞>疑問詞<br>体言をとりたてやすい傾向にある | 名詞>動詞>数量詞>形容詞<br>数量詞を含めた体言がとりたてやすい |
| 述語制限         | 否定述語と疑問文に用いにくい                          | 否定述語と疑問文に用いやすい                     |
| 統語位置         | 自由度が高い                                  | 独立性が低い；文成分の位置を移動させる                |
| 語順と<br>解釈曖昧性 | SOV 言語の優勢語順と相性よく、各方面で安定している             | 距離-標示理論と識別度優先理論が起動し、形態標示が多くなる傾向がある |

総じていえば、日中両言語の極端とりたて表現は様々な側面において一致性が高い。とりたてる要素については、日本語も中国語も体言性要素をとりたてやすい。述語は否定表現に傾く表現がある。目的語をとりたてる以外の場合では、統語位置が重なることが多い。

両言語の極端とりたて表現の最も大きな相違は形態標示にある。日本語極端とりたて助詞は専用の形態標示を豊富に持っており、かつ相対的に固定化している。中国語極端とりたて表現は副詞から派生してきた表現が中心である。特に、焦点標示“连”の文法化と省略は「距離-標示」原則及び「識別度優先」理論に影響され、不安定な様相を呈している。

中国語極端とりたて表現の形態標示は日本語のほど豊富ではないが、言語の発展に伴い、たとえば副詞の一部が助詞の機能を果たし始め、“连”の文法化に次いで、“甚至”“即使”のような形態標示がだんだん形成されている。即ち、中国語極端とりたて表現には形態標示が豊富になる傾向があると考えられる。

## 用例出典

本稿の例文は、先行研究から引用または筆者が作成したものを除き、BCC・BCCWJ・BJSTCから引用したものである。

## 略語

ADV 副詞      NEG 否定      PN 人名      PREP 前置詞

了1: 完了助詞 (動作・行為の完了および状態変化の実現過程の完了を示す)

了2: 文末助詞 (新しい状況の発生や状況の変化を示す)

## 参考文献

### 日本語で書かれた参考文献

- 井島正博 (2007) 「サエ・マデ・デモ・ダッテの機能と構造」『日本語学論集(第三号)』  
東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室. 45-82.
- 井戸美里 (2021) 「日本語のとりたて表現と言語類型論」窪菌晴夫・野田尚史・プラシャ  
ントパルデシ・松本曜 (編)『日本語研究と言語理論から見た言語類型論』開拓社.  
98-124.
- 井上優 (2019) 「中国語のとりたて表現」野田尚史 (編)『日本語と世界の言語のとりたて  
表現』くろしお出版.111-128.
- 菊地康人 (1999) 「サエとデサエ」『日本語科学』(6): 7-31.
- 呉衛平 (2014) 『日本語とりたて助詞と中国語焦点副詞の対照言語学研究』南开大学出版  
社.
- 呉慶霞 (2015) 「極限系のとりたて表現の焦点に関する日中対照研究」『日本学研究』  
243-260.
- 澤田美恵子 (2007) 『現代日本語におけるとりたて助詞の研究』くろしお出版.
- 辻幸夫 (編) (2013) 『新編認知言語学キーワード辞典』研究社.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法 5』くろしお出版.
- 沼田善子 (1986) 「とりたて詞」奥津敬一郎・沼田善子・杉本武(著)『いわゆる日本語助詞  
の研究』凡人社. 36-43.
- 沼田善子 (2009) 『現代日本語とりたて詞の研究』ひつじ書房.
- 町田健 (2004) 『ソシユールと言語学』講談社.
- 三井正孝 (1997) 「現代日本語におけるとりたて詞サエの意味」(山口博先生退官記念特集  
号)『新潟大学国語国文学会誌』. 21-30.

### 中国語で書かれた参考文献

- 袁毓林 (2006) 『试析“连”字句的信息结构特点』(“连”文の情報構造特徴について)『言  
語科学』(2): 14-28.
- 胡垂敏 (2020) 「“连……都……”结构中“连”的主题化现象 (“连…都…”構文におけ  
る“连”の話題化現象)『現代語文』74-81.
- 曹秀玲 (2005) 「再议“连……都/也……”句式」(“连…都/也…”文再検討)『中国語文』  
(2): 117-125.
- 陸丙甫 (2004) 「作为一条语言共性的距离-标记对应律」(一つの言語普遍性としての距離-

標示対応律)『中国语文』(1)3-15.

陸丙甫 (2005) 「语序优势的认知解释: 论可别度对语序的普遍影响」(語順優位の認知的解釈: 識別度が語順に対する普遍的影響)『当代言語学』(1)132-138.

陸丙甫・陳平 (2020) 「距离象似性-句法结构最基本的性质」(距離の類似性-文構造の最も基本的な性質)『中国语文』.642-766.

段繼緒 (2019) 「汉日极性强调表达的共性与微殊」(中日極端強調表現の異同)『高等日本語教育』128-138.

沈開木 (1988) 「表示强调的“连”字所涉及的形式同内容的矛盾」(強調を表す“连”に関わる形式と内容の矛盾)『文法研究と探索』北京大学出版社, 205-217.

沈家煊 (1996) 『不对称和标记论』(不对称と標示論), 江西人民出版社.

劉丹青 (2005) 「作为典型构式句的非典型“连”字句」(典型構文としての非典型的な“连”文)『语言教学与研究』(4): 1-12.

楊永龍 (2011) 『试说“连 X+都 VP” 构式的语法化』(“连 X+都 VP” の文法化).『文法化と文法研究(五)』商務印書館 369-391. 语法化与语法研究(五).